

第1回刈谷市美術館リニューアル計画検討委員会 議事要旨

日 時：令和7年8月12日（火）午後1時30分～4時30分

場 所：刈谷市美術館 2階研修室

出席者：委 員 長 村田真宏氏（豊田市博物館 館長）

副 委 員 長 栗田秀法氏（跡見学園女子大学 文学部 教授）

委 員 中村僚志氏（愛知教育大学 創造科学系美術教育講座 教授）

委 員 鈴木康則氏（刈谷市文化協会 会長）

委 員 馬場千春氏（刈谷市立さくら保育園 園長）

オブザーバー 市民活動部 伊藤部長

事 務 局 市民活動部 石川文化振興監

刈谷市美術館 鈴木館長、神谷専門員、土居学芸員

企画財政部施設保全課 石田課長補佐、上條主任主査、阿部主任主査

次 第： 1 事務局挨拶

2 委員紹介及び事務局紹介

3 委員長、副委員長選出

4 議事

（1）リニューアルの経緯とこれまでの活動概要

（2）館内視察（機能や設備の現状確認）

（3）リニューアル後に目指す姿と基本機能の検討

5 その他

議事概要（委員のおもな意見）：

議事（１）「リニューアルの経緯とこれまでの活動概要」及び（２）「館内視察（機能や設備の現状確認）」について、事務局から説明

- ・現状の施設は抜本的な改善が必要。今後の美術館活動に制約が出る。
- ・これだけの制約の中で、苦勞してよくやっている。全てにわたって基本機能が満たされていない状況である。これまでやってきたからと言って、今後活動を継続するには無理がある。

議事（３）「リニューアル後に目指す姿と基本機能の検討」の計画案について、事務局から説明

- ・「啓発」を超えて、交流し市民参加で多様な活動をやっていくのが大事。来館者のホスピタリティを重視し、以前は周辺に追いやられていた機能を前面に持ってくるかたちに変わりつつある。
- ・「支援」という考え方は少し古く、「一緒に活動してもらおう」がよい。「支援・活性」ではなく、「共創」「共同」「協働」「共生」といった表現が適切だ。
- ・絵本、ポスターデザイン（のコレクション）は、極めて強い個性である。
- ・刈谷市美術館では絵本やイラストレーションなどの作品がたくさんあるので、そこをもっとアピールした方がよい。
- ・（美術館の存在は、）子どもの成長に大きな役割を果たしている。子どもたちにとっては観るだけでなく、五感を活かした体験により大きな影響を受ける。自分が体験したことを、次の世代につなげられるような環境ができると良い。
- ・美術館に行くと、いつでも何か楽しい状況があるとよい。カフェやショップ、キッズコーナー、ワークショップ（ルーム）などが展開され、絵本ラボ、デザインラボでは創作・鑑賞体験を行うことができる。
- ・小中学校では、これから部活動が地域の役割に移行してくる。常時、ワークショップ等ができる環境があると、美術部の活動の場として良い。また、毎年必ず開催する企画があれば、学校の年中行事に組み込むことができるので利用しやすい。
- ・美術は言語や時代を超えて共有できるものである。多様な価値観を理解する場が大事である。
- ・ギャラリーとして設置された美術館がミュージアムとしての体裁を整え、さらに新しい時代の流れとして、市民と一緒に活動するフォーラムとしてのあり方が求められている。今の美術館をリニューアルするのではなく、これからの市民にとって刈谷市にとって有意義な美術館を作ることを考えなければならない。